

陳 情 番 号	98
付託先委員会	総務文教委員会
審 査 結 果	

浜田市議会議長様

浜田市の公共施設等総合管理計画について現状と今後の考え方の説明を求める陳情

浜田市では公共施設等総合管理計画や公共施設再配置実施計画を策定し、公共施設の統廃合や再配置に取り組んでいます。計画策定時に比べ、浜田市の公共施設の数には減っていますが、新規整備や取得によって、ハコモノの延床面積は増えています。浜田市の公共施設等総合管理計画では、行政財産の施設数と面積、普通財産の施設数と面積を合わせてハコモノとして管理しており、行政財産だけがハコモノという訳ではありません。平成25年に6.86㎡と計算した住民1人あたりの公共施設保有量は、人口が減少して面積が増えているため、令和5年5月現在は、約9㎡に増え、類似団体平均と比べ2.5倍、全国でもトップクラスになっているのではないかと考えられます。

また、浜田市の公共施設等総合管理計画では、構造別に更新単価を想定していますが、直近の市の公共施設の建設工事の実勢価格は、計画に示された単価の2倍を超えてきています。具体的には、鉄骨造の更新単価は㎡あたり16万7千円、木造は19万5千円と計画されていますが、直近の工事単価は約2倍～2.5倍になっています。

公共施設に関する計画策定時、40年後には面積で7割しか維持更新できないという試算でしたが、仮に公共施設の更新等に使える予算が想定どおりで、公共施設の多くを占める鉄骨造と木造の更新単価が2倍になった場合は、維持更新できるのは7割ではなく3割5分ということになり、非常に深刻な状態だと思います。

既に実行した統合や計画上の新規整備についても計画している更新費用の約1.5倍～4倍の費用がかかっている現状があります。

実際には、有利な起債ができる期間が計画策定時の想定より延長されているというプラス材料はあるとしても、今後も続く保証はありません。工事単価の上昇というマイナス材料の影響が計画の信頼性、実効性を損ねるレベルに達しているならば、実勢価格以上の更新単価で計算し、計画を修正する必要があると考えます。

公共施設再配置実施計画は令和3年度に第2期計画（計画期間は令和4年度～令和7年度）を策定していますが、この際にもすでに実勢価格と大きく乖離した第1期計画の更新単価（昭和59年度～平成19年度の分析値）をそのまま引き継いでいます。

市長は4月27日付の新聞記事の中で、石見神楽伝承館の設置や美又温泉に日帰り入浴施設整備の検討に触れ、記者からの「新たなハコモノ整備は、市民の理解が得られるか」との問いに「市では公共施設再配置実施計画を策定し、施設の更新や統廃合を計画的に行っている。」と答えていらっしゃいますが、工事の実勢価格が計画で想定している工事単価の2倍を超えてきている例も多いことや、浜田市のハコモノの総量が増え、計画通り進んでおらず深刻な状態である、といった報告を受けていらっしゃらなかったに違いないと思います。

公共施設等総合管理計画や公共施設再配置実施計画を策定し、「喫緊の課題」として削減や統廃合に取り組んできても、両計画に共通の更新単価と実勢価格との差により、市の計画上充てられる予算では計画通りの量を削減できていないために、ペースが鈍い面もあると考えます。工事の実勢価格が高騰していること自体は浜田市に責めがある訳ではありませんし、行財政改革推進課は市長や議会、市民に正しく情報共有し、財政課や建築住宅課とも協力して、急いで必要な修正を行う必要があると考えます。これにより、市長も議会も市民も、みんなが市の公共施設について「市のハコモノの量やそれにかかっている費用はどのくらいなのか」、「本当に必要不可欠なものなのか」、「その施設を作ること、残すことで市民が得られる効果はどうか」、「自分たちの世代の一時の利便性や満足度のために、縮小していく子や孫の世代の市の予算の自由度を奪う（将来出ていく費用を増やしていく）ことになっても良いか」を、危機感を持って考え易くなると思います。

有利な起債を使える期間が伸びて、それらを利用し計画を前倒して統廃合を進めているならば、市のハコモノの総量は減るはずですが、逆に増えているということは、有利な起債も使いながら新たにハコモノを作ったり取得している方が多いということになります。毎年示される中期財政計画では、普通建設事業費は2年後、3年後には階段状に10億円単位で減ると示されていますが、実際には2年後、3年後には、減らないどころか増えていたりします。「作ることや取得することは決めるが、増やすことでその後何十年もかかる維持費、人件費や、大規模修繕、更新、廃止の費用の増加は将来世代でなんとかすればよい。」と考えるならば、これは、子や孫の世代にツケを回している状態でしかなく、このままでは「住みたい、住んでよかった浜田市」にはならないと思います。

誰もが市のハコモノの新設や更新の可否について、正確な情報を基に考えたり判断できるように、「浜田市の公共施設の総量や住民一人当たりの保有量の推移」、「公共施設関係の計画で、現実と乖離している更新単価についてどうする必要があると考えるか」「公共施設再配置実施計画は大幅に遅れているが、計画期間内に削減するペースを加速するのか」、「ハコモノの総量が増えていることをどう考えるか」について、執行部から分かりやすい説明を行っていただけるように働きかけて下さいます様、お願い申し上げます。

2023年6月1日

浜田市国分町

三島淳寛

